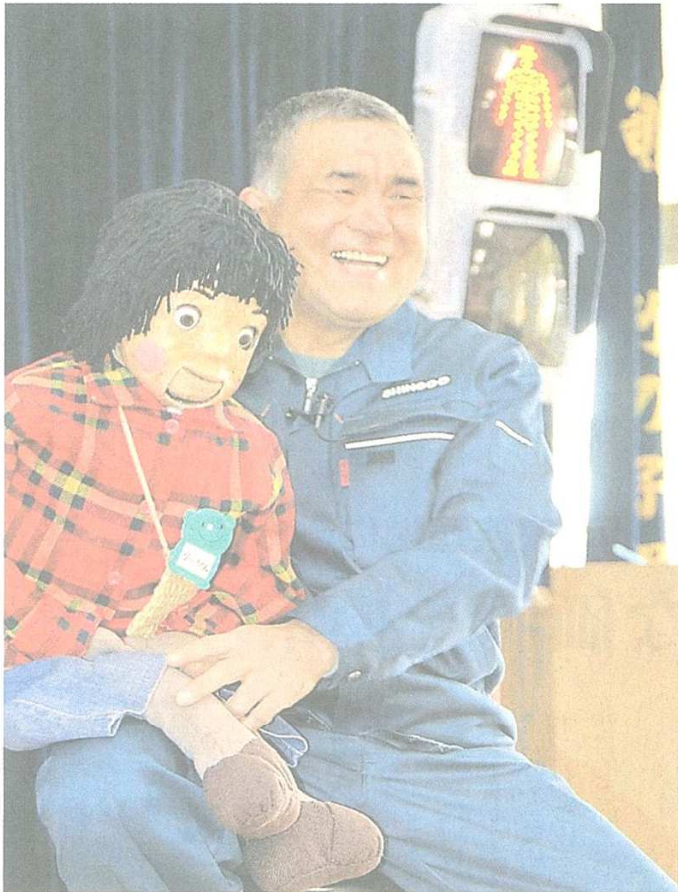


腹話術で交通安全指導

信号灯メーカー名物社員 福田さん



笑顔でボランテニア活動33年

「特技生かし事故減らす」

大牟田市

九州唯一の信号灯器メーカー「信号電材」（大牟田市）に、腹話術で子どもやお年寄りへの交通安全指導などのボランテニア活動をしている名物社員がいる。福田正春さん（62）＝同市山下町。「信号機づくりだけでなく、特技も生かして悲惨な事故を減らしたい」。人形を片手に巧みな話術で安全を訴える活動は、33年になった。

「横断歩道の信号機が青に変わりました」「じゃあ、渡ろう」「ダメでしょ、タツちゃん。車が止まってるか左右を確認して渡らなきゃ」

市内にある竹の子保育園の一室。福田さんが、人形のタツちゃんに交通ルールを優しく教える。その掛け合いをマジマジと見つめる園児たち。笑いどころも多く、約20分の公演は歓声が絶えなかった。

劇の題材は交通安全指導だけでなく、歯磨きの訓練やいじめの問題など多彩。福岡、熊本両県内の保育園や幼稚園に加え、介護施設なども訪問している。

もともと友人を増やそうと地元の指人形サークルで活動していたが、仲間が結婚や仕事で忙しくなり、1人でもできる腹話術を独学で覚えた。29歳のころから続ける腹話術劇の公演は6500回を超える。

▲ 会社で製作した信号機を使いながら、腹話術で交通安全指導する福田正春さん

市内にある竹の子保育園の一室。福田さんが、人形のタツちゃんに交通ルールを優しく教える。その掛け合いをマジマジと見つめる園児たち。笑いどころも多く、約20分の公演は歓声が絶えなかった。

10年ほど前に同居する母親が認知症を患ったため、介護の一環で新作の練習相手になってもらった。訪問する福祉施設には認知症患者も多く、劇中に歌を多く挿入し、話を分かりやすくするなど工夫する。劇を披露すると、母親のように無表情だった患者が手をたたいて心癒し、涙を流す。

「母の介護を通して、みんな一生懸命生きていると実感した。私にとって人形は人の心を開く、かけがえない友達ですね」

職場では信号機の柱を製作。公演では終始にこやかに福田さんだが、「人の命を守るものだからこそ、何よりも安全で丈夫につくら

ないといけない」と後輩たちへの指導は厳しい。

母親が亡くなり、子どもたちも巣立った今なお、妻と二人三脚で地道に活動を続ける。今月から会社も支援してくれることになり、腹話術での交通安全指導を仕事に含め、ホームページなどで活動の周知にも協力するという。

原動力は子どもやお年寄りの笑顔。いつでも眺めることができるように、書斎には大笑いする園児の写真が飾ってある。「楽しそうなお表情を見ると勇気づけられる。体が動く限り頑張ります。人形を持って死にたいくらい」。そう語る福田さんも、とびっきりの笑顔だった。

(御厨尚陽)

議会 12日

大木町 開会。総額6588万円を追加する本年度一般会計補正予算案など4議案を上程した。会期は18日までの7日間。一般質問は18日。